

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.211

2023. 5. 1

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」

岩手の署名は 30,551 筆（～4 月末。うち郵送 328 通・1,276 筆）

◇返信用封筒もありますので、地域配布等に活用ください。ご希望の団体は岩手県生協連まで。

「戦争は今も終わっていない」～いわて生協「ピースアクション in オキナワ」参加報告～

沖縄戦の実相と現在の沖縄が抱える基地問題を学び平和について考える機会として、沖縄県生協連と日本生協連主催「ピースアクション in オキナワ」。4 年ぶりとなった現地参加企画に、いわて生協から2名が参加しました。

◇対馬丸の子どもたちから教えられたこと

1944 年、たくさんの学童を乗せた対馬丸が、集団疎開のため沖縄から本土へと出港しました。親元を離れる寂しさ以上に、遠足のように楽しみにしていた子もいたそうですが、対馬丸は貨物船のため、子どもたちは窓もない蒸し風呂のような船倉に詰め込まれました。

出港翌日の夜 10 時、対馬丸はアメリカの潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没。小さな子は甲板が高くて登れず、大人が海に投げ落としたそうです。船倉から出られないまま沈んだ子もたくさんいて、溺れ死んだり、鯨の犠牲になった子も。乗客 1,800 人のうち約 1,500 人が犠牲となりました。「学校の先生になりたい」「家族でまた一緒にくらしたい」。子どもたちの夢は、生きていればこそその夢なんだと改めて感じます。

戦争が起きると弱い立場の人が多く犠牲になります。大切な人を守りきることが難しいのが戦争。世界では今も、報復の連鎖が子どもたちから新たな夢や希望を奪っています。この報復の連鎖を断ち切る努力を、一人ひとりがすること。それが対馬丸に乗っていたたくさんの子どもたちから私が教えられた事です。（畠山和泉）

◇戦争はまだ終わっていない

戦争は過去のもの、「戦争体験者から学び伝えていくことが、今を生きる私たちの役割」と思い、ピースアクション in オキナワに参加。しかし、生活圏の中にある広大な米軍基地や軍用機、頻繁に飛ぶオスプレイを目の当たりにし、そして沖縄の方たちの苦難を知り、「戦争はまだ終わっていない」ということを体感しました。そればかりか、辺野古への基地移設、自衛隊司令部の地下建設を行っている現場を見て、日本が今、戦争に備えているという恐怖を感じました。

沖縄戦を生き延びた方は、戦後も辛い経験をしました。沖縄全土が焼け、米軍に占領され、家や家族をなくした人々がたくさんいました。十分な食べ物がなく孤児院で次々に亡くなる子どもたち、身を寄せた親族に虐められた人。体験された方は、過去の記憶に苦しみながらも「同じ過ちを繰り返させない」という一心で、伝え続けてくれています。

戦争は「備える」ことではなく「防げる」こと。対馬丸に乗船していた平良啓子さんの「戦争は誰が起こすの？一人ひとりが戦争をさせない努力をしなければいけない」という言葉の意味を考え、今を生きる私の役割をしっかりと果たしてきたいと思います。（伊藤香織）



「5月の街宣署名行動」

9日(火)12:30～13:00盛岡市大通・野村証券前

「憲法改悪を許さない全国署名」を呼びかけます。ぜひご参加ください。

高校前・よ市での宣伝署名行動を行いましたー緑が丘地域9条の会ー

4月1日、盛岡市材木町のよ市で、松園9条の会含めた10数名の参加で署名行動をしました。天気は良かったのですが、風が強く1時間足らずで終了。初日ということで大変な賑わいでした。

4月8日は、9条を守る盛岡北部連絡会（松園・緑が丘の9条の会、地域の新日本婦人の会、医療生協支部で構成）で、盛岡誠桜高校入学式に合わせ、宣伝を盛岡高松の池口で行いました（4月7日に予定していた盛岡一高入学式宣伝は小雨のため中止）。今年は例年になく桜の開花が早まり、お花見の人たちがたくさんいました。12時集合の予定でしたが、11時半ごろ着くと新入生がパラパラ。入学式は終わったと言われ、お花見街宣に切り替えようかと思っていたところ、新入生らしき学生が校舎から出てきました。

それから13時近くまで切れ目なく学生や親御さんが出て来られ、花見客とともに宣伝することができました。「憲法9条守る会です。軍事費



を増やして戦争する準備をしています。チラシをお読みください」と、声をかけながらチラシを配布。受け取ってくれない人が多かったのですが、積極的に受け取ってくれた人やご苦勞様と声をかけてくれた方もあり、元気づけられました。中には、「ダイジョウブ、ダイジョウブ」と話す学生もあり、「大丈夫じゃないよ～」とつい言ってしまいました。署名はなかなか取れなかったのですが、一人の方が近づいて来たので、生協でも取り組んでいますよと言うと、署名してくれました。



盛岡北部連絡会として、5月27日（土）13時半から上田公民館で、「環境問題から平和を考える学習講演会」を予定しています。講師は吉村泰樹さん（岩手大学名誉教授）。「生命のエネルギー使用の視点から環境問題を考える～持続可能な社会をめざして～」と題してお話してくださいます。何とか成功させたいと呼びかけを強めています。（伊藤直子）

《劇場版「荒野に希望の灯をともし」盛岡上映会のお知らせ》

◇6月18日（日）岩手県民会館 中ホール ①10:30 ②13:30 ③17:00

※①と②それぞれの上映後、谷津賢二監督のトークがあります。

前売 一般・シニア 1,200 円（当日 1,500 円）

大学・中高生 500 円（当日同額） 小学生無料

プレイガイド：プラザおでって、いわて生協（一部店舗を除く）、岩手県庁生協、パルクアベニュー・カワトク <お問い合わせ先>岩手県生協連



コラムー “中朝口は「脅威と考えず」”（防衛省幹部の国会答弁）、本当にそうか?! —

私たち「九条の会」は岸田政権に対し、“日本国憲法をまもれ”“九条をまもれ”などと訴えています。そのさなか政府高官が国会答弁で国民が「え、そうなのか」と思いたくなるような「発言」をしました。そうだったら何故普段もそのように「明言」しないのかと言いたくなるのが国民ではないでしょうか。まずは報道記事の全文を一読しましょう。

「中朝口は「脅威と考えず」参院外交委防衛省幹部 侵略意図確認できず 防衛省幹部は（3月）30日参院外交防衛委員会で、日本の安全保障環境に影響を及ぼす中国、北朝鮮、ロシアの3カ国について、国家そのものを「脅威」とまでは考えていないと答弁した。国家指導者による対日攻撃の意図を確認していないためだと説明。北朝鮮を巡り日本政府が「重大な脅威」と呼ぶのは、あくまでも核・ミサイル開発であり、北朝鮮という国家への評価ではないとの認識を示した。

安保上の脅威を、日本政府は「侵略しうる能力と、侵略しようとする意図が結びついて顕在化するもの」（防衛省）と位置付ける。同省の防衛政策局長は委員会で、この解釈に触れ「現時点において、わが国に侵略を行う意図を（3カ国が）明示しているとは承知していない。従って中国、北朝鮮、ロシアそのものを脅威と認識しているのではない」と明言した。

首脳、高官、国会議員も普段このように「明言」していれば、国民は「誤解」することはないのだと思います。「誤解」する国民が悪いではなく、「誤解」させる方がわるいのだと言いたいがどうでしょうか。（T）